

ID: [T-002]

Title: 原型評価プロセスモデル (Archetype Evaluation Process Model)

Author: Erystela Thevale

位置づけ

対象評価軸：理論のライフサイクルに応じた評価基準の分離

接続理論：なし

要約：本理論は、理論のライフサイクルを原型と完成物の二相に分離し、それぞれに異なる評価軸を適用する枠組みを記述する。原型に完成物の評価軸を適用することをカテゴリーエラーとして定義し、原型の評価基準を内的強度のみに限定する。

体系内特性

自己言及性：原型としての記述

1. 定義

- ・ 原型：論理的整合性に基づく可能性の提示。自己完結的で外部参照なしに評価可能な理論の初期相。
 - ・ 完成物：原型の具現化および現象への適用。実証・再現・実用性によって評価される理論の実装相。
 - ・ 内的強度：原型が外部観測との整合性なしに自立する論理的強度。原型評価の唯一の基準。
 - ・ カテゴリーエラー：原型に完成物の評価軸を適用する論理的誤り。
-

2. 公理および機序

1. 理論のライフサイクルは原型と完成物の二相に分離される。両相は評価軸が異なり、相互に代替不可能である。
 2. 原型の評価軸は以下の三項目に限定される。
 - 論理的独立性：他の理論なしで成立するか
 - 記述の硬度：反証条件・制限の明示度
 - 演算の必然性：公理から結論までの論理の飛躍がないか
 3. 原型の評価は既存概念との重複がないことを前提とする。
-

3. 結論

原型と完成物は評価軸が異なる。原型の評価は内的強度（論理的独立性・記述の硬度・演算の必然性）のみを基準とし、実証・再現性の要求はカテゴリーエラーである。

4. 制限

・

本モデルは評価の枠組みを提示するものであり、各指標のスコア化・重みづけは定義しない。

- ・ 原型から完成物への移行タイミングは本モデルの範囲外とする。
- ・ 完成物の評価指標（実証可能性・再現性・実用性）の詳細は本モデルの範囲外とする。
- ・ 既存概念との重複指標は本モデルの範囲外とする。